

月報 2024年 7月31日 No.402

石城山岳会

7月号

四方通信



石城山岳会事務局編集

2024年第四回登山教室「赤面山」

2024年7月月例山行「三国山・清津峡・苗場山」

2024年第四回登山教室「赤面山」

2024年7月14日(日)

○参加者

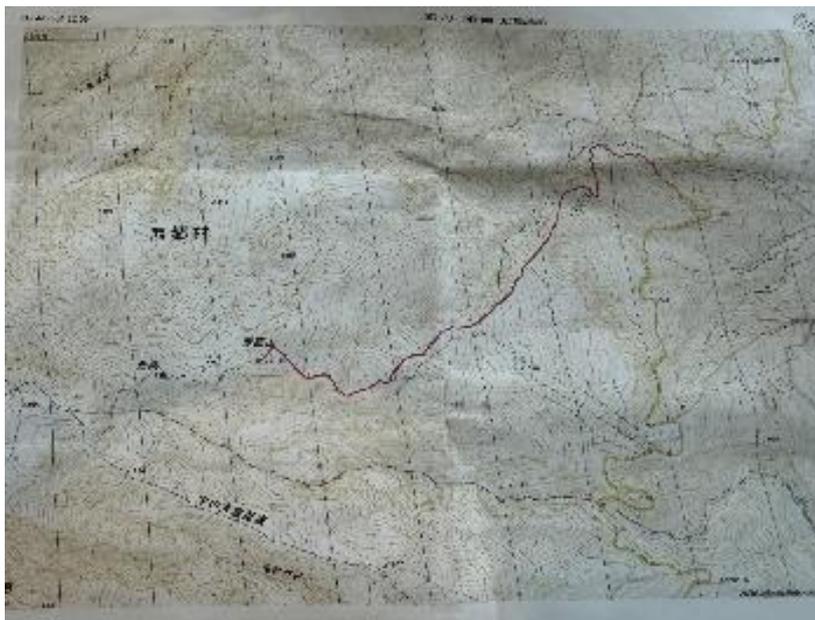
- ・教室（10名）：鈴木(勤)、久保田、阿部、山内、佐藤(敦)、長谷川(公)、竹本、大方、松本、遠藤(真)
- ・会員（14名）：芳賀(恵)、西(由)、秋葉、伊藤(晴)、松崎、柏村、赤塚(将)、佐藤(幸)、渡邊(敏)、蛭田(ミ)、赤塚(園)、国井、小谷野、山縣

悪天候の予報が出ていたが、午後から雨になるとのことでの山行を決行した。水石駐車場を予定通り出発したが、あぶくま高原道路が通行止めのため一般道を走行する。道すがら、こまち湖、こまちダムを通過した。なかなか通らない道なので観光気分を味わう。平田からは予定のルートとなる。トイレ休憩をはさみ、赤面橋に到着した。相変わらずどんよりとした空であり、なんとか降らずにいてほしいと祈りながら堀川登山口を出発！

ポイントではコンパスで位置と方向を確認しながら進んだ。数日前の座学の実践編である。今日のように道がはっきりしていると分かりやすいが、雪などで道も見えず、太陽もはっきりしないとなると非常に不安になるだろうと思う。改めてコンパスの重要性を感じた。登り始めると水の音が大きくなる。谷津田川に沿って歩く途中、小さな滝のような川の流れに出会い、水の冷たさに感動した。ひっそりと咲くギンリョウソウ、疲れを癒してくれたナツツバキ、頂上の景色は残念ながらガスで何も見えなかった。下山途中で雨が降り始めたためカッパを着用した。足元が滑りやすく、私には緊張続きの下山となった。

堀川口についてからさらに雨脚が強くなり、スパホテルあぶくまでピークに達したが、温泉でほっこりできて全員無事に帰路につくことができた。

お疲れさまでした(^_^)



6:00 水石トンネル駐車場集合・出発

【コースタイム】

7:30 赤面橋（駐車）

→7:45 堀川登山口（出発）

→11:00 赤面山頂上（昼食-下山）

→14:00 堀川登山口

14:20 スパホテルあぶくま-帰路

16:40 水石トンネル駐車場・解散

（文責：久保田）

2024年7月月例山行「三国山・清津峡・苗場山」

2024年7月20日(土)・21日(日)

○参加者

1班：猪狩、佐藤(春)、須藤、比佐、星(昭)、山中

2班：安部、佐藤(幸)、種市、青天目、二瓶、星(奈)

7月20日：三国山

三国峠上州口駐車場から旧三国トンネルを横切り、登山口からつづら折りの道、そして三国峠を過ぎるとひたすら木道の階段を登った。暑さと湿気で汗が滴る。ガスが上がり眺めは楽しめなかったが、ヤマアジサイ、ヤマハハコ、ヤマツツジ、シモツケソウやニッコウキスゲの群生などたくさんの花を楽しんだ。山頂で昼食をとっていると、雨が降ってきたため雨具を装着し下山となった。

その後、清津峡へ。清津峡溪谷トンネルの全長750mを潜水艦に見立て、景観やアートを楽しんだ。一番奥のパノラマステーション（光の洞窟）では、清津峡の景観を反転して映す「水盤鏡」が幻想的な眺めを作りだしとてもきれいだった。



7月21日：苗場山

登山口からスキー場を横切り、石の歩みにくい登山道だが、上に目を向けるとダケカンバの林が広がり鳥のさえずりも多く聞こえ癒された。そこを抜けると小さな湿原が続き、イワイチョウやゴゼンタチバナ、ニッコウキスゲ、ウラジオヨウラクなどが咲いていた。股ズリ岩を超え、眼下にはカッサムダムが見えた。水面には白い雲が映り込みとてもきれいだった。神楽ヶ峰からは、ガスの合間から苗場山が見え隠れた。最低鞍部に下ると雷清水と呼ばれる水場があり、周辺はお花畑であった。タヤママツボグサ、タカネナデシコ、ニッコウキスゲ、ハクサンシャジン、クルマユリ、ミネウスユキソウなどたくさんのお花に癒された。そして、やせ尾根を急登する。途中2カ所岩の小さな空間があり、覗くと光苔が光っていた。光苔のパワーをもらい最後ひと踏ん張り。突然視界が開け苗場山頂の東端に出た。

まさに『雲上の楽園。』目の前にはワタスゲの群落、池塘や樹林、山々の絶景に感動した。湿原の花々を見ながら木道を歩くと苗場山山頂に着いた。集合写真を撮り、昼食や自由散策で雄大な景色を楽しんだ。あっという間に休憩時間は終わり、下山開始。

絶景や花々を楽しみながら下り、雷清水の水場でゴクゴクと喉を潤した。本当に冷たく美味しかった。

